のけて、前の殿家實の御むすめ、○長子　いまだをさなくておはするまゐり給ひにき、これはいたく御おぼえもなくて、三條后のみや淨土寺とかや引こもりてわたらせ給ふに、御せうそこのみ日に千たびといふばかりかよひなどして、世中すさまじくおぼされながら、さすがに后だちはありつるを、ちゝの殿攝籙かはり給ひて、今の峰殿道家、東山殿と申き、なりかへり給ひぬれば、又姫君入内ありて、もとの中宮はまかで給ひぬ、めづらしきがまゐり給へばとて、などかうしもあながちならん、もろこしには三千人などもさぶらひ給ひけるとこそつたへきくにも、さなゝ〳〵しからぬ心ちすれど、いかなるにかあらむ、のちにはおの〳〵院號有て、三條殿の后は安喜門院、中のたびまゐり給ひし殿の女御は、たかつかさの院とぞ聞えける、今めかしくすみなし給へり、御はらからの姫君もかたちよくおはする、ひきこめがたしとて、内侍のかみになしたてまつり給ふ、おなじき三年七月五日關白をば御太郎教實のおとゞにゆづり聞え給ひて、わが御身は大殿とて、后宮の御おやなれば、思ひなしもやんごとなきに、御子どもさへいみじうさかえ給ふさま、だめしなきほどなり、あづまの將軍、○頼經山のざす、○慈源三井寺のちやうり、○昭行山科寺の別當、○圓實仁和寺の御室、○法助みなこの殿のきんだちにておはすれば、天下はさながらまじる人少う見えたり、

〔榮花物語三樣々の悅〕このさきやうの大夫どの○藤原道長の御うへ、○道長妻倫子けしきだちてなやましうおぼしたれば、御讀經御修法のそうどもをばさるものにて、さるしありとみえきこえたるそうたちめしあつめのゝさる、大との○道長父兼家よりもみや○兼家女圓融后詮子よりも、いかに〳〵とある御せうそこひまなうつゞきたり、さていみさうのゝさりつれど、いとたひらかにことにいたうもなやませ給はで、めでたき女ぎみ○彰子むまれ給を、かならずきさきがねといみじきことにおぼしたれば、大とのよりも御よろこびたび〳〵きこえさせ給ふ、よろづいとかひあるおぼえならひなり、